

実践事例などを発表
する施設の代表者



労働環境の改善 計画や課題共有

鳥取県看護協会
ワークシヨップ

鳥取県看護協会（虎
井佐恵子会長）は22日、

「看護職のワーク・ラ
イフ・バランス推進フ
ォローアップワークシ
ヨップ」を鳥取市江津
の県看護研修センター
で開いた。約100人
が参加。看護職員が労
働環境の改善を計画、
実践してきた県内の11
病院、2福祉施設が取
り組みを発表し、より
よい労働環境につなげ
るための課題を共有し
た。

日本看護協会と県協
会による事業で3年
目。どの看護職員も生
活と仕事の両立を凶
り、離職せず働き続け
られるように環境整備
を3年間かけて試み
る。

本年度から取り組み
に参加した尾崎病院
（鳥取市）、鳥取市立
病院、県立厚生病院（倉
吉市）、よなご幸朋苑
（米子市）の4施設は、
職員の意識調査や課
題、取り組み推進のた
めに設置した組織など
について発表した。

尾崎病院は、看護職
員の標準化した業務タ
イムスケジュールを作
成して補助者に業務内
容を移譲することを検
討し、看護ケア時間の
確保も実践していると
報告。庁和子看護部長
は「院内活性化につな
がっている。今後は院
内の他職種も含む小グ
ループを作って取り組
みたい」と話していた。

（中西理恵）